



2018年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年1月26日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2018年2月9日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2018年3月期第3四半期の連結業績 (2017年4月1日～2017年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年3月期第3四半期	85,088	3.2	3,232	△1.4	3,471	7.2	2,418	△8.9
2017年3月期第3四半期	82,444	2.8	3,278	13.3	3,239	11.8	2,654	29.5

(注) 包括利益 2018年3月期第3四半期 2,756百万円 (△24.3%) 2017年3月期第3四半期 3,638百万円 (87.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年3月期第3四半期	100.67	—
2017年3月期第3四半期	110.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2018年3月期第3四半期	76,224	42,989	56.4	1,789.42
2017年3月期	70,747	40,714	57.5	1,694.70

(参考) 自己資本 2018年3月期第3四半期 42,989百万円 2017年3月期 40,714百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年3月期	—	9.00	—	10.00	19.00
2018年3月期	—	10.00	—		
2018年3月期 (予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2018年3月期の連結業績予想 (2017年4月1日～2018年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	117,000	3.6	4,900	1.9	5,000	7.1	3,400	△6.9	141.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年3月期3Q	27,700,000株	2017年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2018年3月期3Q	3,675,523株	2017年3月期	3,675,457株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年3月期3Q	24,024,499株	2017年3月期3Q	24,024,655株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国際情勢の不安定感はあるものの、好調な世界経済を背景に、輸出の増加や企業収益の改善などが進み、設備投資の持ち直しや雇用・所得環境も改善するなど、緩やかな回復基調が続きました。

菓子・飲料・食品業界は、個人消費の回復が期待される中、人手不足や働き方改革など社会構造の変化への対応に加え、健康への意識の高まりや嗜好の多様化など、価値観を重視した消費への対応が求められました。

このような状況下で、当社グループは一貫して、食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、働き方の変化や女性の活躍推進などによる消費スタイルの多様化、変わり続ける消費者の価値観への対応として、消費者が求める価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や地域のニーズに合わせた企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、ビスケット品目、チョコレート品目、キャンデー品目などが伸張し売上高は前年同期を上回りました。利益面では、売上高の伸張とコスト削減、生産性の向上、経費の効率的な使用などに取り組みました。燃料価格の上昇などにより営業利益は前年同期に及ばなかったものの、為替の影響等により経常利益は前年同期を上回りました。一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に投資有価証券売却益があったことから前年同期を下回りました。

また、従業員のスポーツ活動の奨励やスポーツ普及への取り組みに積極的な企業として、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定と、スポーツ分野における社会貢献活動を実施している企業として、新潟県より「グッド！スポーツカンパニー」の認定をいただきました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は79,686百万円（対前年同期比102.4%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、ナッツの素材感のあるクッキー「チョコナッキー」シリーズや、チョコレートでエリーゼをコーティングした「ショコラエリーゼ」などを新たに発売しました。季節に合わせた商品展開として“ホワイトフェア”や“いちごフェア”を実施し好評をいただきました。また、企画商品として受験生応援の「濃厚チョコブラウニー（J）」などにも取り組んだほか、エクセレントスイーツシリーズを対象として、自由に組み立てられる旅をプレゼントするキャンペーンを行うなど活性化を図りました。これらの活動により、焼菓子商品の「エリーゼ」シリーズ、半生のファミリーサイズ商品群、パッケージ商品群などが伸張したことに加え、オリジナルビスケットシリーズやマイベネフィット商品群も好調に推移しました。さらに、キャンデー品目では、「ミネラル塩飴」や「とろまろライム味」などに好評をいただいたほか、「フェットチーネグミ」シリーズでフルーツパンチ味やメロンソーダ味など充実を図りました。また、Web動画を活用した商品告知により、ブランドのイメージアップにも取り組みました。チョコレート品目は、新商品「アルフォートミニチョコレートプレミアム濃苺」が大変好評をいただきました。「白・黒トリュフチョコレート」、「粉雪ショコラ」シリーズ、「ブリリアントトリュフ」シリーズなどの冬期限定販売のチョコレートも発売し品揃えの強化を図りました。板チョコレート商品群のほか、ファミリーサイズ商品群、小箱チョコレート商品群、チョコスナック商品群なども伸張しました。天候要因等により伸び悩んだ品目があったものの、ビスケット品目のほか、豆菓子品目、キャンデー品目、チョコレート品目などが伸張したことから、品目全体でも前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は5,402百万円（対前年同期比116.7%）となりました。

飲料品目は、持久系アスリートをサポートする栄養プログラム「ウィングラム」シリーズのスポーツ用品店での販売を開始しました。濃厚でまろやかな「おいしいコナッツミルク」が伸張したほか、ボトル缶入りのココアも取り扱いの拡大により順調に推移したものの、競争激化の状況下でミネラルウォーター商品群が伸び悩み、前年同期を下回りました。

食品品目は、マルチスタイルスイーツ「スライス生チョコレート」シリーズの拡販を図りました。また、機能性食品では、栄養調整食品「スローバー」シリーズが取り扱いの拡大により伸張しました。品目全体では、保存缶商品の需要が落ち着いたことや既存品の粉末ココア商品が伸び悩んだことなどから、前年同期を下回りました。

一方、昨夏に自社工場での生産ラインを完成した「ルマンドアイス」は、供給の安定化を図るとともに、北海道・東北地域、中国・四国地域、関西地域で販売エリアの拡大を図りました。

その他品目では、通信販売事業は、取り扱う商品の充実や新たなサービスの創出など、顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による収益効率の向上に取り組んだほか、展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。

また、酒類販売事業は、苦みと深いコクに加え柑橘類のようなフルーティな香りを強調した限定醸造ビール「R I S E U P I P A」を発売し好評をいただきました。さらに、輸出やギフト商品などが好調に推移し、前年同期並みとなりました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は85,088百万円（対前年同期比103.2%）、営業利益は3,232百万円（対前年同期比98.6%）、経常利益は3,471百万円（対前年同期比107.2%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,418百万円（対前年同期比91.1%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は36,939百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,061百万円増加となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金の増加と商品及び製品の増加があったことによるものです。固定資産は39,284百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,414百万円増加となりました。これは主に、新潟工場等の設備投資により固定資産が増加したことによるものです。

この結果、総資産は76,224百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,476百万円増加となりました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は25,485百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,452百万円増加となりました。これは主に、季節変動による支払手形及び買掛金の増加があったことによるものです。固定負債は7,748百万円となり、前連結会計年度末に比べ749百万円増加となりました。これは主に、長期借入金の増加があったことによるものです。

この結果、負債合計は33,234百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,201百万円増加となりました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は42,989百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,275百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は56.4%（前連結会計年度末57.5%）となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は13,432百万円となり、前連結会計年度末に比べ436百万円増加となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は4,318百万円（前年同期3,545百万円の収入、対前年同期比121.8%）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益3,443百万円があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は4,030百万円（前年同期2,824百万円の支出、対前年同期比142.7%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,936百万円があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は143百万円（前年同期1,655百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入れによる収入1,000百万円と長期借入金の返済による支出179百万円および配当金の支払額474百万円があったことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2017年4月27日に公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,857	13,289
受取手形及び売掛金	13,298	15,016
有価証券	139	143
商品及び製品	3,566	4,509
仕掛品	441	440
原材料及び貯蔵品	2,653	2,700
その他	946	872
貸倒引当金	△25	△31
流動資産合計	33,877	36,939
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,166	13,941
機械装置及び運搬具(純額)	8,956	9,913
その他(純額)	7,739	8,249
有形固定資産合計	29,862	32,104
無形固定資産		
のれん	1,434	1,348
その他	408	387
無形固定資産合計	1,843	1,736
投資その他の資産		
その他	5,166	5,446
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	5,164	5,444
固定資産合計	36,869	39,284
資産合計	70,747	76,224

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,343	12,300
短期借入金	1,649	1,770
未払法人税等	1,076	417
賞与引当金	1,070	388
返品引当金	35	37
その他	8,858	10,572
流動負債合計	23,033	25,485
固定負債		
長期借入金	—	700
役員退職慰労引当金	249	256
退職給付に係る負債	5,787	5,829
負ののれん	21	20
その他	941	942
固定負債合計	6,999	7,748
負債合計	30,033	33,234
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	34,026	35,964
自己株式	△941	△941
株主資本合計	40,912	42,850
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	582	832
為替換算調整勘定	△497	△515
退職給付に係る調整累計額	△282	△177
その他の包括利益累計額合計	△198	139
純資産合計	40,714	42,989
負債純資産合計	70,747	76,224

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)
売上高	82,444	85,088
売上原価	48,311	50,041
売上総利益	34,133	35,047
販売費及び一般管理費	30,854	31,814
営業利益	3,278	3,232
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	55	61
受取賃貸料	13	12
為替差益	—	117
負ののれん償却額	1	1
その他	48	69
営業外収益合計	122	264
営業外費用		
支払利息	7	5
減価償却費	12	12
賃貸収入原価	7	6
為替差損	128	—
その他	5	0
営業外費用合計	161	25
経常利益	3,239	3,471
特別利益		
固定資産売却益	9	0
投資有価証券売却益	665	—
特別利益合計	674	0
特別損失		
固定資産処分損	54	26
減損損失	28	1
その他	11	0
特別損失合計	93	28
税金等調整前四半期純利益	3,819	3,443
法人税、住民税及び事業税	1,076	883
法人税等調整額	88	141
法人税等合計	1,164	1,024
四半期純利益	2,654	2,418
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,654	2,418

(四半期連結包括利益計算書)

(第 3 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2016年 4 月 1 日 至 2016年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2017年 4 月 1 日 至 2017年12月31日)
四半期純利益	2,654	2,418
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	347	250
為替換算調整勘定	522	△17
退職給付に係る調整額	113	105
その他の包括利益合計	984	337
四半期包括利益	3,638	2,756
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,638	2,756
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2016年4月1日 至 2016年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2017年4月1日 至 2017年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,819	3,443
減価償却費	2,579	2,783
のれん償却額	85	85
受取利息及び受取配当金	△58	△64
負ののれん償却額	△1	△1
支払利息	7	5
為替差損益（△は益）	48	△115
投資有価証券売却損益（△は益）	△665	—
固定資産処分損益（△は益）	45	26
減損損失	28	1
売上債権の増減額（△は増加）	△1,852	△1,718
たな卸資産の増減額（△は増加）	△515	△986
仕入債務の増減額（△は減少）	1,998	1,956
賞与引当金の増減額（△は減少）	△687	△681
その他	354	1,019
小計	5,185	5,754
利息及び配当金の受取額	60	64
利息の支払額	△7	△5
法人税等の支払額	△1,693	△1,494
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,545	4,318
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付金の回収による収入	484	0
有形固定資産の取得による支出	△3,579	△3,936
投資有価証券の取得による支出	△476	△44
投資有価証券の売却による収入	796	—
その他	△48	△50
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,824	△4,030
財務活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△838	—
長期借入れによる収入	—	1,000
長期借入金の返済による支出	△150	△179
リース債務の返済による支出	△239	△202
配当金の支払額	△426	△474
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,655	143
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	4
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△951	436
現金及び現金同等物の期首残高	14,596	12,996
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,644	13,432

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。